

## さくらの景観まちづくり賞 建築物部門



伝統を感じるリノベーションカフェ

「入母屋珈琲」

(上座・古民家再生 カフェ)



### 受賞理由

歴史的な木造住宅を外見はそのままに現代的なカフェとして再生することで周辺環境に調和した店舗とした点、またロードサイドという目にとまりやすい立地にあることでこの一帯の景観を先導する役割を担っている点が評価された。

### 佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

・構造を変えず、また白と黒の伝統的な配色を生かしながらモダンなファサードを作り出している。また、それにより周辺の市街地とも違和感なく調和している。

- ・元々あった開口部(窓)を活かしそれらをさらに広げ、室内の様子も見えるようにしており入ってみたい気にさせる外観である。
- ・歴史的な木造建築を活かしたカフェへのリノベーション建築で、ユーカリが丘の近代的な開発住宅地に近接しているところにも佐倉市の歴史的に重層した田園景観があることをしのばせる。歴史的な建築物の活用による景観まちづくりとしての観点から評価は高い。集客上、駐車場が広くとられているのは致し方ないとして、今後さらに街並みに調和した外構づくりなど、さらに景観面での向上に対して、成田街道をリードする存在になることを期待したい。
- ・画一的なロードサイド型の飲食店等が立ち並ぶ国道沿いの環境にあって、当地に残る入母屋造りの古民家を活かし歴史的な暮らし、佇まいを今に伝えるリノベーションを行っている。店舗の外観ばかりでなく、インテリア、調度、外構、サイン、照明などが高い水準で総合的にデザインされている。
- ・成田街道沿い、ロードサイド型のチェーン店も並ぶ当該箇所に存在した古民家を原位置保存し、新たな役割を付与することで、幹線道路沿いに入母屋造りの建物が存在する風景を保った点が評価できる。カフェという商業空間として利活用することで、地域資源の保全と経済性の両立が図られることが期待される。
- ・入母屋の重厚感ある建物と漢字及びアルファベットの看板が調和し、落ち着いた感のある建物で、この古民家を見つけただけでほっとする。
- ・建物敷地の駐車場奥に見えるドッグランの文字とその奥の板塀が古民家の佇まいを感じさせ、上品な景観を創出させている。
- ・入母屋珈琲でゆっくりとお茶を飲みながら読書したら、時間を忘れて一日があっという間に過ぎ去っていく感じである。
- ・古き建物外観を残しながら、改築して新しい活用を考えたという点ですばらしい。
- ・構えが立派ではあるが以前は普通にあった木造民家を奇をてらわず無理なく改修しているところに好感が持てる。また、本件のテーマではないが地域の空き家利用などの参考にもなる。

#### 《より良い景観に向けて》

- ・「人と家、人と人をつなぐ」のコンセプトが名実とも果たされるよう、ファサードのみでなく、来店者に当該古民家を契機に、現代的な都市の風景と田園風景の狭間で佐倉の魅力を体感できる空間として、多様な人々を受け入れるカフェ展開を期待したい。
- ・建物周囲の縁石やアスファルトなど、景観の縁取りとなるべき外構デザインが願わくば店舗の民家に馴染むものであれば、街並みに連鎖を与える存在になると思う。

## さくらの景観まちづくり賞 建築物部門



城下町との色彩の調和を図る

「千葉銀行 佐倉支店」

(新町・店舗)



### 受賞理由

景観形成重点区域である新町通りに面した大型の建築物を、周囲の景観と調和したデザイン・色彩とした点は、新町地区のまちなみ形成に貢献した。また、行政・専門家と協働してこれらのデザイン・色彩を決定した点が評価された。

### 佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- ・新町の歴史的な町並みや色彩とも調和の取れたものとなったことは言うまでもないが、建物単体としてみても重厚で落ち着きのあるものとなった。
- ・景観計画策定後の新町地区景観形成重点区域内での銀行建築の改修事業で、色彩の調和など

の観点から評価でき、今後の重点区域内での模範事例と捉えることが出来る。

- ・成田街道に面する立地の重要性を考慮し、周辺に残る歴史的な商家とも調和する落ち着いた色彩を用いてリニューアルを行っている。建物の外観や企業ロゴなど、目に見える工夫だけでなく、地域密着型の店舗として、企業のCI(Corporate Identity)よりも街並みとの調和を優先した企業の姿勢も称えたい。
- ・景観形成重点区域内で、既存の建築物を外壁改修により、新町地区が目指すまちなみ形成に大きく貢献した先進性が評価できる。行政やアドバイザーとの協働により、助言を尊重した改修は、建築物自体がまちなみに及ぼす効果のみならずそのプロセスや企業姿勢も併せて敬意を表したい。
- ・建物外壁の色調に落ち着きがあり、城下町新町通りに調和し、歴史的風情を醸し出している。通りに面して設置している植え込みが景観にアクセントを与えている。
- ・新町の景観に合った、落ち着いた色彩となっている。

#### 《より良い景観に向けて》

- ・周囲と調和する落ち着いた建築物と対比し、赤い看板の色彩が違和感を生じさせている。色彩をおさえ、建築物や周辺の街並みに調和させることで、企業イメージのさらなる向上や、周辺の土地所有者に対する影響力は大いに高まると予想され、そうした機会が得られることを期待したい。
- ・建物本体とは別の屋外看板との調和が図られたらより優れた景観を構成すると思われる。
- ・通りに向けた建物のファサード面が大きいので、今後に想定される沿道建物の建て替えなどの際にも景観に良い影響を与える事を期待したい。
- ・新町通りでは、昔の木造の商店街の殆どが専用住宅となってアイボリーの外壁建材が目立つようになって来た。これは景観ガイドラインの色彩に外れるものではないながら、多くが建材の質感が考慮されていない為におおよそ歴史的な街並みを連想する事は出来ない。しかし、この改修では景観ガイドラインの色彩を守りつつも外壁の建材の質感を考慮してダークトーンに抑えることで、近代的ビルディングの躯体をおしる歴史的風情を助ける景観に仕上げているところが高く評価できる。通りに向けた建物のファサード面が大きいので、今後に想定される沿道建物の建て替えなどの際にも景観に良い影響を与える事を期待したい。

# さくらの景観まちづくり賞 活動部門



古き良き趣を残す古民家旅館

「成田さくら邸」

(吉見・古民家再生 旅館)



## 受賞理由

古民家の再生・活用による多目的スペースの創出や農村景観の質の向上、空き家対策など、多岐にわたり良好な影響を及ぼしている点が評価された。

## 佐倉市景観審議会からの講評

---

### 《特に優れているポイントなど》

- ・周囲の屋敷林、竹林と調和した和の空間が再現されている。バーベキューなどの屋外活動のスペースの確保、植栽なども施されながら全体としてまとまりのある景観が形成されている。
- ・吉見の集落内の民家を貸し切り旅館にリノベーションした建築で、周囲の住宅も建て替わる中でこのような保全活用は、佐倉の景観資源の保全活用という観点からも評価できる。また、そうした希少性が出てくる中で、田舎暮らしの体験といった佐倉市内外の多くの人たちにアウトリーチする活動も評価できる。
- ・重厚なかやぶき屋根の古民家を周囲の里山と一体的にリノベーションし、歴史や自然を活かした魅力ある空間として再生している。宿泊施設、レンタルスペースという単体の機能だけでなく、佐倉の歴史、景観を巡る拠点としての波及効果が期待できる。
- ・アクセスに恵まれたとは言い難い立地を逆手に取り、古民家の特性を活かした多目的スペースを創り出した点が評価できる。都市部から適度な距離感で、田舎暮らし体験も可能な設備を有しつつ現代的な快適性を担保した施設は、宿泊・レンタルスペースとして利活用されることで、多様な主体の活動や、地域内外の様々な人々の交流を支える場として機能することが期待される。
- ・竹林との調和が優れたリフォーム古民家邸宅である。入口ゲートとその延長の塀が上質な景観を生み出している。
- ・佐倉の農村風景を感じさせる地域の中での古民家再生・活用ということで価値がある。
- ・佐倉市の中でも古い民家が残るエリアの一つである吉見で、古い建物を活用して地域外からの来訪者が利用する施設としているところに佐倉市の観光資源としての価値がある。

### 《より良い景観に向けて》

- ・周囲から敷地内や古民家を視認することは難しく、知らない人にとっては、看板以外の要素から当該施設をうかがい知ることは出来ない。田園風景に残る古民家が有効活用され新たな価値を生み出す好例となりうる可能性を有する施設であることから、ぜひ施設そのものや、当該施設で模様されるイベント等を通じ積極的に発信して欲しい。市内に多数残存する古民家資源の利活用への波及効果を期待したい。
- ・旧納屋の改装や駐車場、アプローチ道路や遊歩道なども整備されているが、全体として里山の中の古民家の面影がしっかりと継承されている。
- ・外構が整備中だが、広い敷地であり、景観向上の可能性は未知数である。

## さくらの景観まちづくり賞 活動部門



落ち着いた重厚な通りの景観を創出

「大聖院 武家屋敷通りの修景活動」

(鎚木町・寺院)



### 受賞理由

生け垣を残し門を修繕したことにより、歴史的な外構を保全し、武家屋敷通りの景観の一体性の維持に貢献している点が評価された。

### 佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- ・生け垣を存置し武家屋敷から続く緑の連続性や景観の一体性を維持できたのは良かった。門の形状・色彩も、生け垣や武家屋敷の雰囲気と調和のとれたものである。
- ・永い時間をかけて醸成された佇まいは、一度破壊してしまうとすぐに再生することは難しい。本件では、土地利用が変わっても外部空間と接する歴史的な外構を保全し、地域の景観がもつ豊かな佇まいの維持に貢献している。
- ・当該地域の空家・空地対策と既存の門・生垣の保存によるまちなみ保全を両立させた模範的な好例

として評価できる。武家屋敷通りからひよどり坂へ至るアプローチに位置し、生垣が続くまちなみは落ち着いた重厚な通りの景観を創出するとともに、当該地域を散策する際の落ち着いたシークエンス景観に大きく寄与しており、今後、多く人々の滞留や散策につながることを期待される。

- ・大聖院は宮小路武家屋敷通りの奥にあり、武家屋敷通りとその先にあるひよどり坂の中間にある。この大聖院の脇にある住宅地が取り壊されたおり、生け垣を残し、門を修繕して、武家屋敷通りの景観を保つように努力されたことは、景観まちづくり賞にふさわしいと考える。

その結果、武家屋敷通りからひよどり坂まで一体化し、通りの歴史散策に深みを与えている。

- ・生垣・石壇・門が一連の調和を成しており、佐倉では珍しく歴史的景観が一箇所に纏まった武家屋敷前の通りを支えている景観といえる。既存の景観に誇りをもって歴史的町並みを大切にしている事が伝わり、それを讃えたい。

#### 《より良い景観に向けて》

- ・生垣が駐車場の目隠しになっていることで、大聖院を訪れる車の駐車場誘導が難しい状態である。幟や案内板が落ち着いた通りの景観を阻害することの無いよう、公共サインとの連携など、行政・所有者が協働で通りの景観が維持される展開を期待したい。

- ・門の脇に設置された看板については、武家屋敷通りの景観にふさわしいものとなるように、色彩や掲出方法などの工夫を期待したい。

- ・宮小路町の武家屋敷通りは佐倉市でも最も観光客が訪れる場所で3棟の武家屋敷と当時のまま残る土塁と生垣、その奥のひよどり坂はサムライ小径と呼ばれ城下町佐倉の景観を最も感じられる地区である。今回の申請は門と周辺の景観とのことだが、門を含む小径としての景観と評価したい。案内ののぼりか目印ののぼりか、設置方法を検討されたらより歴史的景観が向上すると思われる。